

協議会からあんしん連携ノート合冊改訂のご報告

脳卒中と急性心筋梗塞はそれぞれ本邦の死因の4位と2位であり、脳卒中は寝たきりの原因の1位とされています。両者の発症には動脈硬化や加齢を背景に、種々の危険因子が関与しています。その多くは共通して、高血圧や糖尿病、脂質異常症、慢性腎臓病、喫煙、脳卒中においてはさらに心房細動などの危険因子の管理が大切です。

発症後の生活管理は重要で、急性心筋梗塞後の心不全予防や管理、脳卒中後の閉じこもりや口腔内ケアなどの肺炎予防も大切で、専門医療機関とかかりつけ医の連携、医療と介護の連携の重要性は日々増えています（ノートでは肺炎球菌ワクチン接種歴のほか、定期評価時の要介護度の記載欄が新設されています）。

さらに最近、生活習慣病管理に関するうつとの関与、脳卒中後のうつ、てんかん、認知症の発症など精神疾患との関係も注目されています。ノートの7ページには患者さんの心の具合の不調などの記載項目を新設して、訪問スタッフのチェックや必要によりPHQ-9によるうつのスクリーニングも可能となりました。

ノートはページを減らしスリム化を図る一方で、好評であったビニールカバーとポケットをそのまま残しました。「脳卒中・急性心筋梗塞あんしん連携ノート」と「脳卒中あんしん生活ガイドブック」が、皆様方の診療と生活管理の一助になるよう願っております。（協議会ホームページより）

5. 今後に向けて

脳卒中および心筋梗塞のみならず、糖尿病、高血圧、脂質異常症、動脈硬化性疾患、慢性腎疾患などは今後ますます増加することが予想されます。ノートはこの点を意識して疾病管理を想定して作成され、かかりつけ医と患者家族、専門医のコミュニケーションツールとしての役割が期待されます。日常診療のデータやかかりつけ医による疾病管理評価、専門医による評価がWeb上で登録、参照ができる点もさることながら、かかりつけ医と専門医がノートを介して協力し合える点が好ましいものと思われます。このようなあんしん連携ノートのメリットが注目され、全国からの問い合わせが相次ぎ、すでに熊本県では「くまモンの脳卒中ノート」として、香川県でも同様に脳卒中あんしん連携ノートとして事業が始まっています。

今後さらに患者様の利便性や再発予防や一次予防まで考えると、より一層のかかりつけ医療機関の参加が必要になってまいります。のみならず介護関連施設、訪問看護施設、関係行政機関等の協力も必要となります。この事業の趣旨をご理解くださり、皆様の積極的なご参加、ご協力をお願いいたします。

北海道地域医療連携クリティカルパス運営協議会
ホームページ <http://www.hcp-meeting.jp/>

お知らせ

— 生命保険「団体扱い」のお奨め —

◇ 医業経営・福利厚生部 ◇

会員の皆様が加入されている下記生命保険会社（8社）の保険を、当会の『団体扱い契約』にしますと保険料が割引されます。

契約者が会員本人で『個人扱い』にてご加入されているご契約がありましたら、該当の生命保険会社担当者へ『北海道医師会の団体扱い』に変更したい旨、お伝えいただき、所定の手続きをお願いいたします。

記

【団体扱い生命保険会社名】

日本生命、ジブラルタ生命(旧セゾン生命分除く)、第一生命、住友生命、明治安田生命、富国生命、朝日生命、三井生命

※実際の割引料につきましては、ご契約の保険会社にお問い合わせください。

※当会を退会した場合は、会員へ確認の上、個人扱いへ変更させていただきます。

団体扱いに変更された場合の保険料の払込方法は、以下のとおりです。

開業会員⇒「国保診療報酬」から引去

勤務医会員⇒口座振替により毎月12日に

所定の口座から振替いたします。

【口座振替 取扱銀行】

北海道銀行 本店、各支店

北洋銀行 本店、各支店

2行のみ

「問い合わせ先」

○団体扱い該当の生命保険会社

または

○北海道医師会『事業第五課』（TEL011-231-1434）